

# 續古逸叢書・四部叢刊における岩崎本説文解字影印の画像比較

広島大学総合科学研究科 鈴木俊哉

本資料は、續古逸叢書および四部叢刊(初印本)における岩崎本説文解字(王昶・陸心源旧蔵、靜嘉堂文庫現蔵)の影印の比較のため、両本の見出し小篆を切り出して画像比較したものである(本表)。2019 年 3 月 8 日の「東洋学へのコンピュータ利用 第 30 回研究セミナー」での発表「テンプレートマッチを用いた岩崎本説文解字影印本の加筆部分推定」の補助データとして公開する。

また、差異が目立つ 329 字について、靜嘉堂文庫所蔵本のマイクロフィルムを紙焼きしたものからのスキャン画像を加えた別表も公開する。

## 1. 表の構造について

表のセルは左から順に以下のようにになっている。

### ① (ローマ字による識別子)

通し番号([0-9]{5})と、出現箇所(v[0-9]{2}[ab].l[0-9]{2}[lr].g[0-9]{2})を示す。出現箇所は、巻号(v01-14)、巻上下(a/b)、葉番号(l01-11)、葉左右(l/r)、頁内見出し字番号(g01-)を並べた。

### ② (小篆に対応する現代漢字)

小篆に対応づけ得る現代漢字、あるいは IDS をカンマ区切りで列挙している。一意の識別子ではないので注意されたい。

### ③ (出現箇所(漢字表記))

識別子のセルでの出現箇所について、

巻[0-9]{2}[上下] / 葉[0-9]{2}[右左] / 行[0-9]{2}篆[0-9]

の形式で表記した。①とは異なり、頁内見出し字番号ではなく、行番号と行内見出し字番号である。

### ④ 續古

續古逸叢書の宋本説文解字から切り出した、見出し小篆字形。

### ⑤ 四部

四部叢刊初印本の宋本説文解字から切り出した、見出し小篆字形。

### ⑥ 比較

續古逸叢書と四部宋刊初印本のスキャンデータを異なる色で塗り、重ね合わせた画像。

### ⑦ Micro (別表のみ)

靜嘉堂文庫所蔵宋元本：宋版 13(經部 13)(雄松堂書店, 2015, 日本全国書誌番号 22892022)のマイクロフィルムより当該部分を紙焼きし、グレイスケールでスキャンしたもの。

## 2. 典拠データの由来について

本資料の画像の典拠は以下の通りである。

### ① 續古逸叢書

江蘇広陵古籍刻印社による縮印本(1994)によった[1]。同社は 2001 年に第 2 版を出しているが、日本の研究機関附属の図書館で最も所蔵が多いのは 1994 年版である。

## ② 四部叢刊

zh.wikisource.org にてパブリックドメインとして公開されている以下の画像群によった。

[https://zh.wikisource.org/wiki/File:Sibu\\_Congkan0066-%E8%A8%B1%E6%85%8E-%E8%AA%AC%E6%96%87%E8%A7%A3%E5%AD%97-4-1.djvu](https://zh.wikisource.org/wiki/File:Sibu_Congkan0066-%E8%A8%B1%E6%85%8E-%E8%AA%AC%E6%96%87%E8%A7%A3%E5%AD%97-4-1.djvu)

[https://zh.wikisource.org/wiki/File:Sibu\\_Congkan0067-%E8%A8%B1%E6%85%8E-%E8%AA%AC%E6%96%87%E8%A7%A3%E5%AD%97-4-2.djvu](https://zh.wikisource.org/wiki/File:Sibu_Congkan0067-%E8%A8%B1%E6%85%8E-%E8%AA%AC%E6%96%87%E8%A7%A3%E5%AD%97-4-2.djvu)

[https://zh.wikisource.org/wiki/File:Sibu\\_Congkan0068-%E8%A8%B1%E6%85%8E-%E8%AA%AC%E6%96%87%E8%A7%A3%E5%AD%97-4-3.djvu](https://zh.wikisource.org/wiki/File:Sibu_Congkan0068-%E8%A8%B1%E6%85%8E-%E8%AA%AC%E6%96%87%E8%A7%A3%E5%AD%97-4-3.djvu)

[https://zh.wikisource.org/wiki/File:Sibu\\_Congkan0069-%E8%A8%B1%E6%85%8E-%E8%AA%AC%E6%96%87%E8%A7%A3%E5%AD%97-4-4.djvu](https://zh.wikisource.org/wiki/File:Sibu_Congkan0069-%E8%A8%B1%E6%85%8E-%E8%AA%AC%E6%96%87%E8%A7%A3%E5%AD%97-4-4.djvu)

この資料は以下の部分で他の資料とさしかわっている。

### A) 卷 08 下 葉 02 右 (06187~06198)

おそらく通志堂本『經典釋文』卷 3 のうち、『古文尚書音義』の商書「仲虺之誥第二」末尾から「湯誥第三」の冒頭にかけての頁になっている。

### B) 卷 08 下 葉 03 右 (06215~06220)

おそらく通志堂本の『經典釋文』卷 3 のうち、『古文尚書音義』の商書「太甲上第五」末尾から「咸有一德第八」の冒頭にかけての頁になっている。

### C) 卷 08 下 葉 05 右 (06303~06335)

おそらく通志堂本『經典釋文』卷 3 のうち、『古文尚書音義』の商書「盤庚下第十一」末尾から「說命中第十三」の冒頭にかけての頁になっている。

また、以下の部分は解像度が極端に低い。

### D) 卷 08 上 葉 10 右 (06104~06119)

以上の A)~D)に関しては、調査対象から除外し、画像が入るべきセルには「原欠(A)」「低解像度(D)」などと記入している。

## ③ マイクロ

『靜嘉堂文庫所蔵宋元版』のマイクロフィルムより当該部分を紙焼きし(余白部分も含め、見開き 1 枚を A4 に焼き付ける程度の大きさである)、600dpi のグレイスケールでスキャンした。小篆 1 文字あたり 250×320 ピクセル程度である。

## 3. 比較画像について

比較画像は、切り出した画像を OpenCV のテンプレートマッチによって位置調整し(詳細は参考文献[2]を参照されたい)、以下の色変換を行って重ね合わせた。

**続古逸叢書:** 原画像の黒ピクセルを緑色で塗りつぶし、アウトラインを 1 ピクセル黒く塗ったもの。

**四部叢刊:** マゼンタで塗りつぶしたもの。アウトラインも単純に塗りつぶした。

したがって、両者で共通しているピクセルは暗い紫色になっている。緑は続古逸叢書のみ、マゼンタは四部叢刊のみに由来するピクセルである。PDF 化に伴い、若干の色ずれがある。



予備的な調査として、目視により字形差があると判断したものは当該行をピンクでマークしている。

			續古	四部	比較
00085 v01a.l02l.c10.g1	禮, 禮	卷01上 葉02左 行10篆1			

### 謝辞

本資料の作成にあたり、科研費課題番号 26330377, 16K004600 の補助を受けました。大西克也先生、高橋由利子先生、白石將人先生、金木利憲先生、永崎研宣先生、成田健太郎先生、王貴元先生、陳信良先生、王奕樺博士、川幡太一博士、王一凡氏、中山陽介氏、大居司氏に大変有益な議論と示唆を頂きました。ここに御礼申し上げます。

### 参考文献

- [1] 續古逸叢書 經部、江蘇広陵古籍刻印社(1994)、p.297-433、NII 書誌 ID: BN12138248
- [2] 鈴木俊哉: 説文解字書影対比をテンプレートマッチで行う際のパラメータ自動設定について、情処研報告, 研究報告人文科学とコンピュータ(CH), 2017-CH-115, No. 3, p.1-6, <http://id.nii.ac.jp/1001/00182792/>
- [3] 鈴木俊哉: テンプレートマッチを用いた岩崎本説文解字影印本の加筆部分推定, 東洋学へのコンピュータ応用 第 30 回セミナー 概要集 (ISSN 0910-3201), p. 231-285

### 変更履歴

- 1.0 (2019/02/14) 初版公開
- 2.0 (2019/03/14) 別表(マイクロ資料との比較)を追加